



山王台だより12月号

令和元年11月29日

横浜市立山王台小学校

〒235-0016

横浜市磯子区磯子5丁目2-1

TEL 045 (755) 1107

【学校教育目標】自分のよさに気づき、相手の気持ちを大切にしながら、ともに高め合って生きる

読書週間を終えて思うこと

～子ども時代に読んだ本～

副校長 岡崎 陽子

日の入りがどんどん早まり、今年も残りひと月となりました。先月は読書月間。秋の夜長を楽しむ方法の一つとして、読書に親しんだ方も多いのではないのでしょうか。本校では、読書週間を設けて、図書委員会が読書集会を行ったり、担任以外の教員が各学級に行って読み書かせをしたりする等の読書に親しむ取組を行いました。また、今年には磯子図書館と連携して国語の学習内容に関連した本を一定期間セットで借りる取組にも力を入れています。子ども達にはたくさんの本に親しみ、心が動かされる経験を重ねてほしいと願っています。

ところで、私が子どもの頃は、今のように身近にコンピュータやスマートフォンがなかったので、外に遊びに行けないときの時間の過ごし方の一つに読書がありました。そこで、私の読書の思い出を三つ紹介します。

一つは、小さい頃、寝る前に父が読み聞かせをしてくれたことです。毎日ではありませんでしたが、仕事から早く帰って来たときに、いろいろな物語が入った白黒の影絵が印象的な本を読んでくれました。一つ一つのお話の内容は、もう覚えていませんが、読んでくれる父の声が、一本調子で、だんだんと眠たそうな声になっていくのがおもしろかったことだけは、よく覚えています。続きはまた今度となるのが常でした。

二つは、学校の図書室から本を借りて家で読んだことです。「三銃士」や「リア王」等、世界の名作物語を借りては読み、読んで返していたことを覚えています。物語の展開に、ドキドキ、ハラハラしたのはもちろんのこと、自分の貸出カードにどんどん本の題名が増えていくので、借りること自体も楽しかったのだと思います。

三つは、小学校の高学年になったとき、自分が読みたい本を本屋さんで買ってもらったことです。特に、様々な人物の伝記を読むことがおもしろくて、「キューリー夫人」、「エジソン」、「リンカーン」等、伝記シリーズの中から興味の湧いた人物を選んで、買ってもらっていました。少しずつ自分の手元に本が増えていくことにもワクワクしていたように思います。

本校の子ども達の4月から現在までの学校図書館の本の貸し出し冊数は、約4000冊です。今年度の目標は、6000冊です。このままいけば、目標を達成できるのではないかと思います。

本を手にするきっかけは、人それぞれです。読みなさいと強制されてもなかなか読む気にはなれないものです。ただ、本に触れる機会がなければ、読書は始まりません。本校では、学校図書館の充実やマザーグースの会や学校司書による読み聞かせ等、本に触れる機会を多くすることで、本に親しみ、心が動かされる経験へとつなげたいと考えています。本に関わる様々な体験が、読書を身近なものにしていくのではないかと期待しています。

今の私の読書の体験は、電車に乗っている8分間とバスを待っている時間です。スマートフォンを眺めていることも多いのですが、短い時間でも読書タイムにしたいと奮闘中です。「継続は力なり」細く長く続けていくことが目標です。